

鉄道からみる名古屋の未来

愛知県立旭丘高等学校 1 年 蟹江祐斗 蒔田歩夢

1 はじめに

三大都市圏に数えられ多くの人が日々行き来する名古屋、その人々の足でもある鉄道を調べることによって人々の考え方や動きの特徴を捉え、さらなる名古屋の発展のために活かせるのではないかと考え研究を始めた。

【研究の概要】

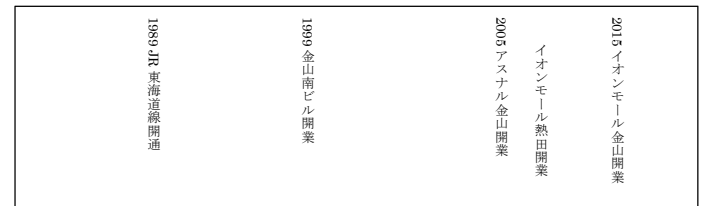
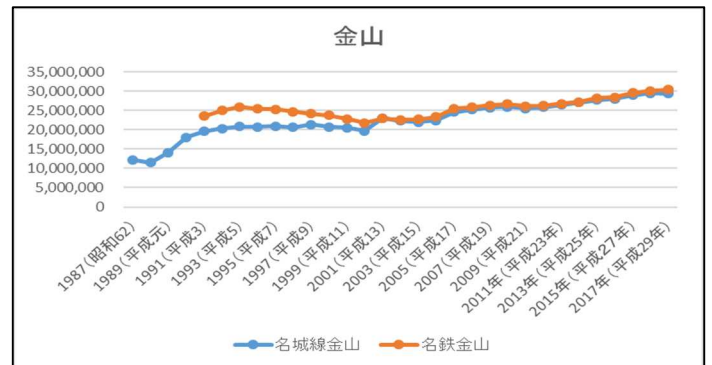
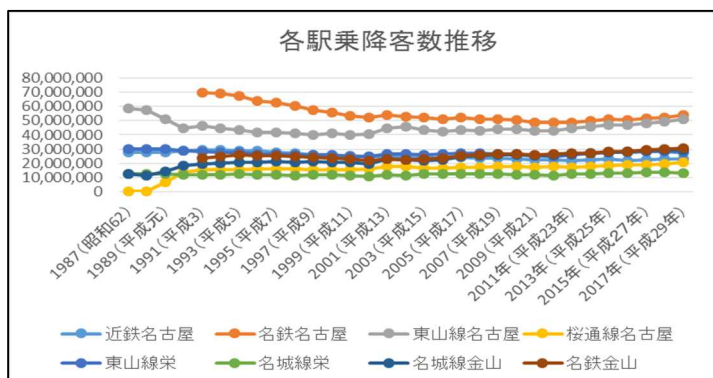
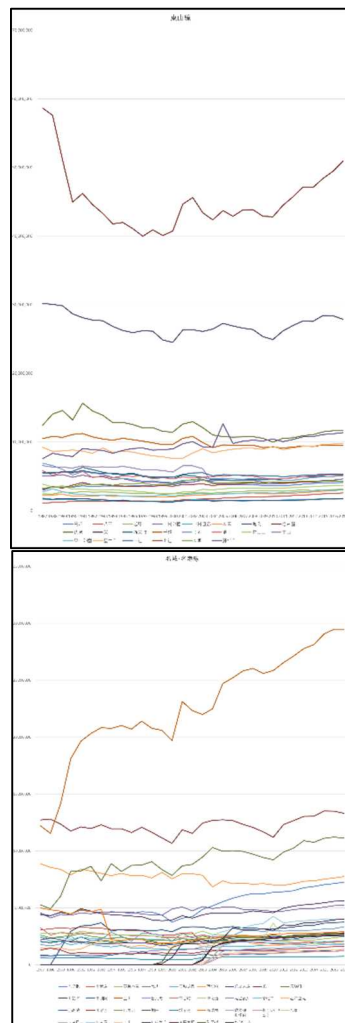
- (ア) 名古屋市を中心として走る各鉄道の年度ごと乗降者数を特定の駅に絞って調べ、それら进行处理する。
- (イ) 処理結果とその年度に名古屋市またはより大きな規模で起こった経済的变化や人口の移り変わりを照らし合わせ、乗降者数に変化が起こった原因を調べる。
- (ア)(イ)に基づき何が鉄道の乗降者数に影響を与えるのかを考察する。

2 研究の方法

- (1) 名古屋市営地下鉄の乗降客数について、名古屋市統計局の HP でデータを収集し、Excel を用いてグラフを作成した。右のグラフは、中でも乗降客数の多かった 2 路線である東山線と名城・名港線の各駅における、1987 年から 2016 年までの乗降客数の推移である。
- (2) (1)のグラフから特に利用者が多い名古屋・栄・金山の三駅に着目して乗降客数の推移を抜き出してグラフに表し、その増減理由を調べ、考察した。

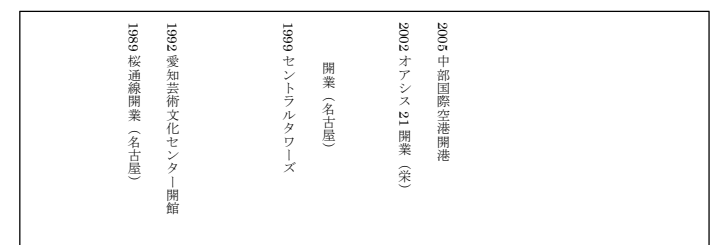
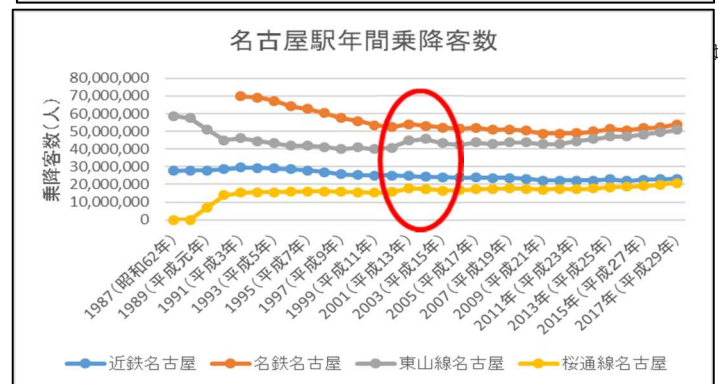
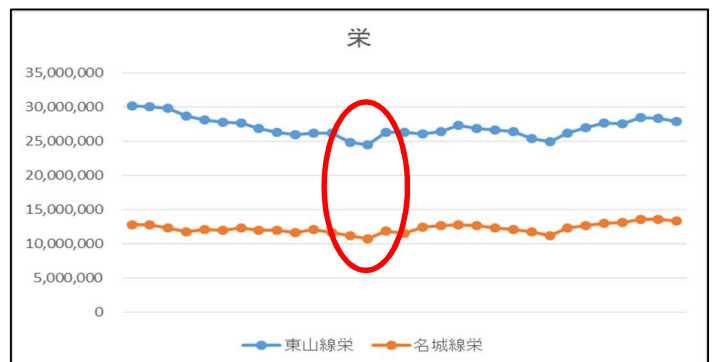
【結果】

金山駅では、乗降客数のグラフに顕著な上昇が見られた。金山駅は名古屋に次ぐ第二のターミナル駅として、そして名古屋鉄道・JR・名古屋市営地下鉄の三路線をつなぐ玄関口としての役割がある。グラフの変化が大きいため、この駅は名古屋駅・栄駅と比べて新しく出来た駅だろうと予想して調査をしてみると、開業時期は栄駅とほぼ同じであった。では、この右肩上がりのグラフを形作っている原因は何であろうかと考えた。



この上昇が起こった年だと見られる 1989 年から金山駅とその周辺では大規模改修が行われており、金山駅における JR 東海道線の開通を始め、金山プラザホテル、アスナル金山などの宿泊・商業施設の開業などがあった。乗り換え駅としての機能性が高まったことに加えて、金山駅付近の開発が行われたことが要因と考えられる。

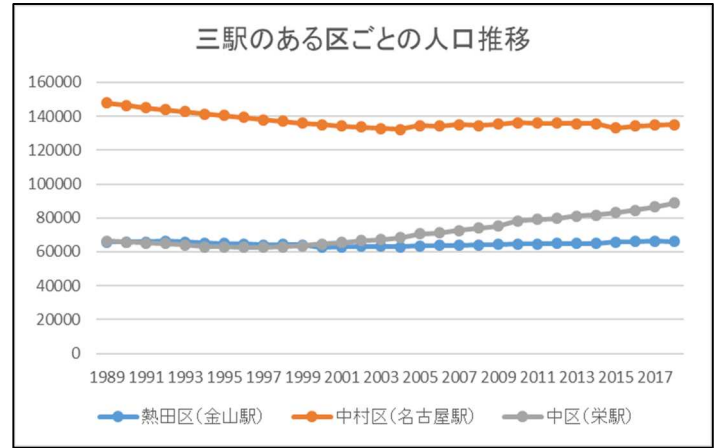
さらに名古屋・栄駅では複数の線が通っているため、それぞれの乗降客数をグラフにまとめたところ増減の折れ線グラフの形状が共通していた。



1999～2001 の期間には、J Rセントラルタワーズの開業があったため、名古屋駅を訪れる人が増加したからだと考えられる。また、名古屋市全体の総人口の増加により、2011 年からごく緩やかな増加が見られた。

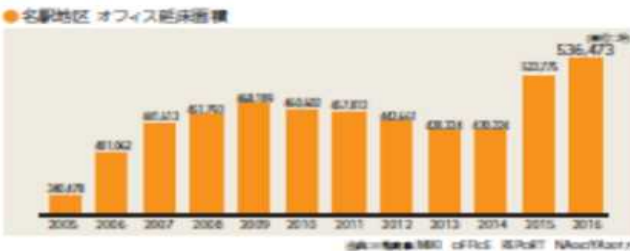
栄駅では、2000 年の乗降客数に減少のピークが現れた。2000 年に栄駅を利用する人が減少したのは、名古屋駅のグラフ部分と一致していることから考えて、JR セントラルタワーズが開業し、観光やショッピングを目的に訪れる人が栄駅より名古屋駅を利用することが原因と考えられる。

(3) 人口の増減が乗降客数の増減に与える影響を見るため、各駅が位置する市区町村の人口も調べ(1)と合わせて考察した。



【結果】

乗降客数の増減に対して、その駅周辺の人口の変化は小さいため、人口が乗降客数に及ぼしている影響はほとんどなく、3 駅の乗降客数は他地域からの通勤通学者が主であることが分かる。

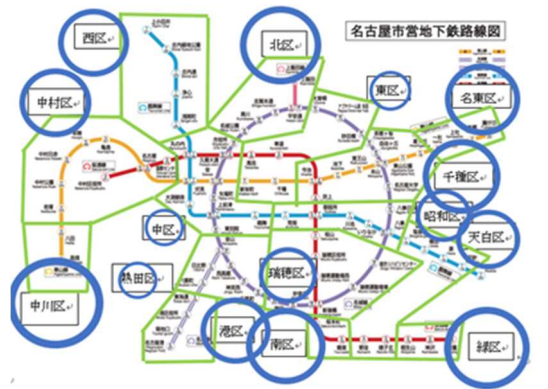


また、JR メディアガイド 2018 によると、名駅地区のオフィスの延床面積が最近になって急激に増加していることが分かった。名古屋駅の乗降客数のグラフを見てみると、同時期に似たような乗降客数の上昇も見られたため、通勤者と乗降客数の相関関係が見てとれる結果となった。

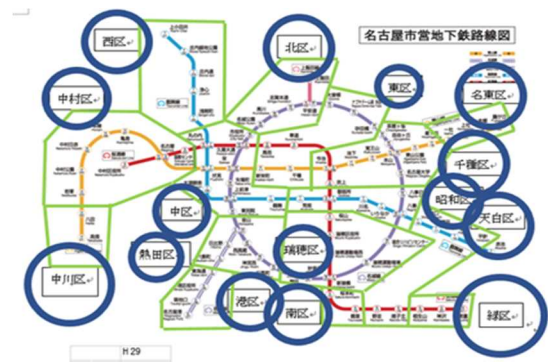
(4) 路線図を名古屋市 16 区に区分し、三駅周辺よりさらに広い範囲での人口変動と鉄道利用者との関係性について分析を行った。

	1990	2017	増加率
千種区	156,000	166,000	10,000
東区	69,000	79,000	10,000
北区	172,000	163,000	-9,000
西区	141,000	149,000	8,000
中村区	146,000	134,000	-12,000
中区	65,000	86,000	21,000
昭和区	106,000	109,000	3,000
瑞穂区	111,000	107,000	-4,000
熱田区	65,000	66,000	1,000
中川区	200,000	220,000	20,000
港区	148,000	144,000	-4,000
南区	159,000	136,000	-23,000
守山区	144,000	174,000	30,000
緑区	178,000	244,000	66,000
名東区	152,000	166,000	14,000
天白区	134,000	164,000	30,000

【結果】



1990 年



2017 年

- * 1. 区名を囲む円は人口を表す。
- * 2. 路線図は名古屋市交通局、人口のデータは名古屋市統計局のものを使用した。
- * 3. 表の数値は千の位までの概数で表した。

名古屋市内の区ごとの人口についても調べた。これまで調べてきた 3 駅のある中村区・熱田区・中区は隣接している他の区に比べて人口が少ないことが分かった。このことから、名古屋市中心部に行くにつれて人口が減少していくドーナツ化現象が読み取れた。また 1990 年と 2017 年の二つの地図を作成したところ、人口の増加した区が減少した区よりも多く、全体的には名古屋市内で人口増加が起こっている。

名古屋市内全体では増加している人口が、名古屋駅のある中村区では減少していること、熱田区・中区の人口も多くないことから、名古屋・栄・金山を含む地域では、商業施設やオフィスビルが増え、居住地域が減少し、昼間に人が流入し夜に他地域へ帰っていくという人の流れが読み取れ、昼のと夜の人口差が大きいたことが分かる。

3 まとめ・今後の展望

2027 年にリニア中央新幹線が開通する予定の名古屋。これにより他の大都市圏とつながることで新たな利用者の増加がみこまれる。今回の研究で、オフィス街や商業施設などが集まる地区は、他地区の新たな建物の開発に影響され、それぞれの地区人口が変動するものの、数年で安定することがわかる。また金山駅は名古屋市内・愛知県内でのターミナル駅として、名古屋駅は日本国内・海外からの人々のターミナル駅兼オフィス街として、栄駅は商業施設への最寄り駅としてそれぞれの役割を持つからこそ栄え利用者数が多いことが分かった。愛知県全体の発展を考えると、これら 3 駅以外の駅の開発をし、集中を分散させることも必要不可欠であると考えられる。

4 参考文献

- 1) 統計名古屋 web 版 <http://www.city.nagoya.jp/shisei/category/>
- 2) 総務省統計局：国勢調査 <https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files>
- 3) JR メディアガイド 2018 <https://www.jrta.co.jp/pdf/strength/strength>
- 4) 名古屋市交通局 <https://www.kotsu.city.nagoya.jp/jp/pc/subway/routemap.html>